

1. 第三者評価報告概要表

作成日 平成21年8月10日

【評価実施概要】

事業所番号	2875201192
法人名	有限会社 シリウス
事業所名	グループホーム レラティブ別府
所在地	神戸市西区北別府5丁目31-4 (電話) 078-975-5888
評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6番8-102号
訪問調査日	平成21年6月22日

【情報提供票より】 (21年5月11日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 5 月 15 日		
ユニット数	3ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	32 人	常勤17人, 非常勤15人, 常勤換算22人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート 造り
	3階建ての 1~3 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	55,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円	
敷金	有(300,000 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円) 無()	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	400 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,300 円			

(4) 利用者の概要 (5月11日現在)

利用者人数	27 名	男性	8 名	女性	19 名
要介護1	1	要介護2	10		
要介護3	8	要介護4	6		
要介護5	2	要支援2	0		
年齢	平均 83 歳	最低	70 歳	最高	101 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団 健裕会 中村医院 偕生病院
---------	----------------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

職員がやりがいを持ち安心して仕事ができる職場環境を整えることで職員が定着してきており、職員個々が第三者評価を受ける意義を理解し、サービスの質をより高めるための具体的な取り組みが出来ている。小学校等との交流を続け運営推進会議の参加メンバーから出された提案や情報を活かし地域の理解と協力が深まってきている。地域密着型サービスとしての事業所の多機能性を活かし、共用型デイサービスを実施しており利用者・家族が安心して暮らし続け自宅での生活が限界になった時に馴染みの職員がいる環境への緩やかな住み替えの支援を行なっている。また、現在空き部屋を利用してのショートステイも検討し準備を行っている。

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4) 第三者評価結果については、会議等の中で職員からも積極的に意見が出され、改善に向け前向きな検討がなされている。重度化や終末期での対応についての勉強会の実施・個人情報保護の為に施設による書類保管の徹底等、具体的に改善されている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4) 職員一人ひとりが自己評価に取り組み、フロア毎にリーダーが個々の意見を集約し、最終的に管理者が完成させている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6) 2カ月に1回の定期的な開催で、民生委員・あんしんすこやかセンター職員・知見者・利用者家族等が参加している。家族には会議の開催について毎回案内し、積極的な参加を勧めている。ホームの現状・利用者の状況・行事への取り組み・第三者評価結果等を報告し、参加者からの意見・提案については、実践に向け具体的な討議がなされている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8) 重要事項説明書に相談・苦情窓口機関について明示し、面会時・電話・メール等で、家族が気軽に意見や相談等伝えやすいよう働きかけている。出された意見等は申し送りやミーティングで検討した後、結果は口頭、手紙、メール等で返答し、迅速な対応を心掛けている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3) 小学生の福祉体験受け入れの継続・夏祭り・音楽会を通してホームへの理解も深まっている。地域ボランティアの協力を得た園芸活動の中で、利用者も草ひきなど、出来る事を共に行っている。運営推進会議での参加メンバーからの提案が実現し、障害者施設との交流が始まり、おやつなどの物品販売等での関わりが、利用者の楽しみや気分転換となっている。

2. 第三者評価報告書

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家族・地域とともに支えあい「共に生きる」ことを大切に、利用者の思いにそって寄り添いながら支援していく事を目指している。地域に密着したサービスを提供していくために、理念に基づいたホームの運営方針も運営規定に明示されている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念はホーム玄関やフロアに分かりやすく掲示し、毎日のミーティングの中で話し合われている。また、職員の日常の会話の中で自然な形で語られ、ケアに反映されるよう意識づけがなされている。新任職員への理念の浸透については、研修等を通して徹底していく事を検討している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	小学生の福祉体験受け入れの継続・夏祭り・音楽会を通してホームへの理解も深まっている。地域ボランティアの協力を得た園芸活動の中で、利用者も草ひきなど、出来る事を行っている。運営推進会議での参加メンバーからの提案が実現し、障害者施設との交流が始まり、おやつなどの物品販売等での関わりが、利用者の楽しみや気分転換となっている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>今年で5回目の第三者評価受審であるが、回を重ねる毎に、職員からも積極的に意見が出され、改善に向け前向きな検討がなされている。自己評価は職員一人ひとりが評価項目を確認し、フロア毎にリーダーが意見を集約し、最終的に管理者が完成させている。</p>		
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2カ月に1回の定期的な開催で、民生委員・あんしんすこやかセンター職員・知見者・利用者家族等が参加している。家族に会議の開催について毎回案内し、積極的な参加を勧めている。ホームの現状・利用者の状況・行事への取り組み・第三者評価結果等を報告し、参加者からの意見・提案は、運営面に反映していけるよう取り組んでいる。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>ケースワーカーを通して関わりを持つと共に、他ホームの空き室情報など地域事業所についての情報収集や制度面での相談など、日常での交流も継続している。地域のあんしんすこやかセンターとの連携も保っている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族面会時での報告や、電話・メール等を活用した連絡など、個々の利用者や家族の状況にあわせ対応している。またホーム便りや利用者の様子を記した手紙を毎月1回家族に送付する等、定期的な情報提供もなされている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>重要事項説明書に相談窓口機関について明示し、面会時・電話・メール等で、家族が気軽に意見や相談等伝えやすいよう働きかけている。出された意見等は申し送りやミーティングで検討した後、結果は口頭、手紙、メール等で返答し、迅速な対応を心掛けている。</p>		<p>今後も家族への連絡・報告は迅速な対応を継続すると共に、家族からの相談・苦情等については、経過や対応結果を記録に残し、再発防止やサービスの質の向上に活かしていく事を期待する。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>フロア間での職員の異動は、利用者の現状や支援体制の変化等に配慮し、状況に応じた異動が行われている。退職、異動があった場合は、職員間で利用者への影響に配慮しながら勤務体制等工夫し、ダメージを防いでいくよう努めている。運営者・ホーム長等が職員と話す機会を多く持ち、個々の思いを理解しストレスの軽減につながるよう取り組んでおり、近年の離職者は減少している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎月の学習会は年間計画に基づいて、職員が主体となって、認知症ケア・接遇・ターミナルケア・感染症対策等実施し、更なる知識の習得とスキルアップを図っている。外部研修は内容に応じて研修費等を支援し、積極的な参加を勧めている。研修後は報告書や資料等により職員間で伝達研修を実施し情報共有を行っている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>地域のグループホーム連絡会に参加している。職員は見学や研修等を通して他ホームの職員・利用者との交流の機会もある。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>希望に応じてホーム見学や体験デイ・体験入居を利用できる機会を設け、本人や家族と馴染みの関係を作った上でのサービス利用開始になるよう、段階的な支援を行っている。状況によっては、他ホームの情報を提供する場合もあり、本人の納得のいくサービス利用ができるよう支援している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	利用者と共に過ごし支えあう関係 職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は日々の暮らしの中で、利用者と同じ目線で接していくよう心掛けている。共に過ごす中、お互いの中で「ありがとう」の感謝の言葉が自然に交わされる場面が見られ、助けあう・支えあう関係が継続されている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人・家族・関わりのある関係者等からの聞き取りを参考に、家族状況・生活状況・発症経過シート・ホームに望む事等を、それぞれの様式にそって記録し、本人の意向が入居後の暮らしに反映されるよう取り組んでいる。入居後も、機会ある毎に利用者の言葉・行動等で、思いや希望に変化がないか確認している。		
2. より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者・家族の意向にそって職員間で話し合い、計画作成担当者や担当職員が中心となり介護計画を作成している。作成後の計画は家族に説明し、了解を得ている。		


第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	職員は毎月のサービス担当者会議の中で、利用者一人ひとりの介護計画を振り返り、日々のケアとのズレがないか検討している。定期的には3～6ヶ月に1回の計画の見直しを実施し、家族からの新たな要望や利用者の心身の変化があれば、その都度変更していくよう取り組んでいる。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	共用型デイサービスを実施しており利用者・家族が安心して暮らし続け、自宅での生活が限界になった時に馴染みの職員がいる環境への緩やかな住み替えの支援を行なっている。また、現在空き部屋を利用してのショートステイも検討し準備を行っている。入院された場合も職員が入院先に出向き顔馴染みの関係が継続できるよう支援している。入院先の主治医との早期退院に向けての話し合いも積極的に行っている。医療連携体制はとっていないが、利用者・利用者家族の状況にあわせて医療の対応・連携を取るようになっている。		
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 利用者や家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関とは24時間連絡が取れる体制を整えおり、週1回の内科医の往診の他泌尿器科の往診もある。家族・本人が希望すればできる限り病院受診できるよう支援し、家族が通院介助する場合には、文書による情報提供を行い、家族から口頭による報告を受け情報の共有を図り適切な医療が受けられるよう支援している。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>入居時よりターミナル・終末期に向けての話し合いを行い利用者・家族の希望を聞き、出来る限りターミナル・終末期をホームで迎える事が出来るように支援している。利用者の状況の変化に応じ家族・主治医と話し合いを重ね、利用者・家族の不安を最小限にできるように取り組んでいる。現在、医師との十分な協力関係ができており、終末期に向けた支援が実施できている。職員の勉強会を重ね終末期に対する職員の不安を軽減する取り組みも行っている。</p>		
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>昨年の評価結果を活かし、書類保管を施錠できるところへ保管管理するように変更し個人情報の漏えい防止に努めている。日々職員同士でプライバシー保護について意識し注意しあっていくだけでなく、プライバシー保護・個人情報保護に関して理解を深め徹底を図るための研修も予定している。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>利用者の状況・希望にあわせた日々の暮らしを何気ない状況で支援している。健康に配慮した生活リズムを利用者個々のパターン・ペースに合わせて支援しその人らしい生活ができるよう柔軟に対応している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>献立は、以前管理栄養士に立ててもらったメニューを参考に利用者の希望や季節の食材を取り入れ献立をたて、食材搬入を依頼し調理をしている。調理・配膳・後片付けは利用者の状況にあわせて参加してもらい、利用者は見守りや支援を受け力が発揮できるよう支援している。希望があれば外食も取り入れ、食事が楽しみになるように取り組んでいる。利用者と職員が食卓を囲み談笑しながら食事する姿があり穏やかな生活が感じられる。</p>		
23	57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴は、原則同性介助をおこない羞恥心への配慮を行うようにしている。夜間入浴の希望があれば職員の配置を検討し対応するよういはあるが、現在、夜間入浴の希望がなく殆どの利用者が午後1時～5時の入浴が多い。入浴を嫌がる利用者に対しても声かけやタイミングを工夫し最低でも週2回の入浴ができるよう支援している。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>入居時のアセスメントから利用者個々の力を発揮できるよう役割ある暮らしを支援している。また、習慣や希望・嗜好・有する能力を踏まえパチンコやカラオケ・買い物などに柔軟に対応し気晴らしの支援にも力を入れている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の公園への散歩や庭での日光浴などは、常時行っており、近隣の喫茶店やファミリーレストランでの喫茶・食事も利用者が行きたいところがい言い易い雰囲気作りを心がけ個別・柔軟に対応している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の安全性を考えコールマットを使用しているが、1F玄関は利用者の状況に合わせ職員数を調整し昼間は開錠している。2・3Fはドア前直ぐに階段があり安全性を考え施錠しているが、利用者の行動や表情の観察を行い利用者が閉塞感を感じることなく動きを妨げないように支援している。家族の施錠の希望も多いためホームより施錠に対する弊害について説明し、常に開錠の必要性を説明し協力と理解が得られるような取り組みを行っている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防・避難訓練を実施している。夜間を想定をした避難訓練も今後実施予定である。食材搬入業者に災害に備えた食料・飲料水の備蓄をしてもらっている。運営推進会議で地域との連携をどのように図っていくか現在検討中である。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>ケアチェック表でバイタルサイン・服薬・口腔ケア・食事・水分量など利用者個々の身体状況・健康状態が把握できるようにしており、利用者個々に食事量・バランス・飲水量を把握できている。嚥下障害や塩分・カロリー制限の必要な利用者に対しても個別の対応を行い必要な食事・水分が取れるよう支援している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>自由に入出入りができるベランダからは、自然な光が差し込み、適宜開放される窓から入る風で気持ちよく過ごせる共有空間となっている。季節感を感じる花や装飾があり、職員と利用者の何気ない会話や笑い声が聞かれ、利用者個々が家庭的な雰囲気を感じながら過ごせる空間作りが行われている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時より利用者が使い慣れた家具やベット・小物などの持込を働きかけ、自宅との誓いによるダメージを最小限にするように取り組んでいる。利用者の趣味や嗜好に合わせ、カレンダーを貼ったり小物を置いたりし利用者が居心地良く過ごせるように取り組んでいる。</p>		

 は、重点項目。